

令和元年度 調査研究報告書

「新しい時代に必要な資質・能力を 育成するための教育課程の編成と校長の役割」

福 井 県 小 学 校 長 会
福井県小学校長会調査研究委員会

はじめに

福井県小学校長会長 山口 満

本年度は、新学習指導要領の移行措置2年目であり、来年度の全面実施に向けて、教育活動の質を上げていくためのカリキュラム・マネジメントをさらに進めていく年でもあります。また、学習評価の改善に向けての組織体制を整備し、検討していくことが必要となります。

一方、「学校における働き方」が大きな課題となっており、平成31年2月には福井県教育委員会で「福井県学校業務改善方針」が策定され、この方針に基づき、各学校において教員の働き方改革が進められているところです。

子どもたちのために、国や教育委員会、家庭・地域、学校がやるべきことを明確にし、教員が笑顔で子どもたちの前に立ち、福井の教育の質をさらに高めるためにも、膨大になってしまった学校・教員業務を見直すことが必要です。教育課程の編成権や校務に関する権限の多くを持つ校長が、スピード感を持って、業務改善に取り組んでいくことが求められています。

さて、今年度も調査研究委員会のご尽力と会員のご協力により、調査研究報告書「新しい時代に必要な資質・能力を育成するための教育課程の編成と校長の役割」が作成されました。本報告書は、全連小と連携した調査項目に本県会員の要望に基づく独自の調査項目を加え、我々校長が何を優先し、どのように対応しようとしているのか、何を強く要望しているのかが明らかにされています。また、まとめられた調査研究報告の内容は、前年度と比較調査を行い、併せて全国との比較も加えています。このことにより、学校経営上の今日的課題がより明確になっています。

私たちは、組織の総力を挙げて課題解決に努めるとともに、積極的に政策提言を進め、もって県民・国民の信頼に応える必要があります。本報告書の調査結果を踏まえ、校長として現状を深く認識し、教育改革の動向を的確に把握しながら、リーダーシップを発揮し、確かな計画と実行力をもって教育の成果を上げていかなければなりません。そのために、校長は自らの使命を自覚し、権限と責任の下に、未来社会に夢と希望を持ち、たくましく生きる児童の育成を志向して、活力ある学校づくりに努め、本県の教育がさらに充実したものとなるよう舵取りをしなければならぬと考えています。

最後になりましたが、本調査研究報告書の発行にあたり、調査項目の設定、膨大な調査結果の集計、整理、分析、報告書の執筆に取り組んでいただいた調査研究委員各位、並びに調査に御協力いただきました県下各小学校長の皆様、関係各位に心よりお礼申し上げます。